

ターニングポイントとなる大切な年

令和になって最初の、お正月を迎えました。みなさまおめでとうございます。2020年は、21世紀の日本にとってターニングポイントとなる大切な年になりそうだ。

1964.10.10 小学6年生だった私は、東京オリンピックの開会式や東洋の魔女、アベベの力走に心が躍った。56年ぶりに東京に帰ってきた「オリンピック・パラリンピック」。新しくなった国立競技場を中心に、新宿・札幌・東京・日本にと、たくさんの人たちが海外からも訪れてくれる。昨年の「ラグビーW杯」にも多くの方々を訪された。釜石では、台風19号の影響で、ナミビア対カナダの試合が中止となった。その日、カナダチームは、台風被害のあった地域でボランティア作業を。ナミビアチームは、滞在していた宮古市で交流会を開催してくれた。「世界は一つ」との感を深くした瞬間だった。

今年もさらに多くの方が。「おもてなし」の心で、来ていただいたみなさんが、満面の笑みで帰国の途についていただきたいと願う。昨年の1月のこの通信に、SDGs「誰も置き去りにしない」を心がけたいと記した。(1つ目)

ターニングポイントとなる大切なこの年に、さらに、次の2つの心も肝に銘じながら、私は歩いていきたい。2つ目は「他人の不幸の上に自分の幸福を築いてはならない」(トルストイ)。3つ目は、母の願いである「かぎりなく温かい人 どこまで優しいかわからないような人に」である。

残された人生を、この3つの心を胸に刻みながら、歩みたい。それが「子ども総合センター」の心でもありたいと願っている。令和初の正月の日々に想う。

(DOIG)

適応指導教室「はばたき」から

～「あい・愛フェスタ」に在室生と卒業生が出店～

いよいよ新しい年「令和2年」がスタートしました。教室の子どもたち・指導員共に、心新たに活動をしていきたいと思えます。今年もよろしくお願ひいたします。

さて、昨年度の暮れに社会福祉協議会主催の「あい・愛フェスタ」が行われ、なんと適応指導教室の子どもたちにも出店のお誘いをいただきました。早速、在室生と卒業生に声をかけたものの「大勢の人が来るけれど大丈夫だろうか？」と内心は心配で不安でした。

しかし、子どもたちは迷いもなく「出店する」と返事をし、当日は約束の8時30分に集合して準備を手伝い、一日中自分たちが出店した魚釣りやゴルフ遊びに来る幼児や児童に一生懸命関わっていました。人前に出ることや人と会話をすることを嫌がっていた子どもたちが時間を守り、しっかりと仕事をしている様子を見て成長したことを感じました。

貴重な体験の機会をいただいたことに感謝するとともに、「ご苦労様、ありがとう。これからも自分の足で歩いて行ってほしい。」と願った一日でした。

お子様の不登校や適応指導教室に関する相談の連絡先(電話番号089-989-5022)



晒蠟 (さらしろう) 業で栄えた上灘

化粧品やクレヨン、蠟燭(ろうそく)などの原材料となる蠟は、樫(はぜ)の実をもとに作られます。製蠟工程のうち、天日に生蠟(しょうろう)を当て、青色から白色に変色させる工程を晒蠟と言います。上灘の晒蠟業は、内子より最盛期が20年遅れて大正時代に最盛期を迎え、「灘蠟」の名で内子が衰退してからも盛んでした。

晒蠟には広い敷地が必要で、灘町でも一丁目の、現在の鉄道陸橋周辺部に晒場がありました(今は双海地域事務所や郵便局、パーキングなどになっている)。上灘が他地域に比べて有利であったのは、①盆地状の内子に比べて雨量が少なく日照時間が長く、その割に海陸風が吹いて涼しかった。②原料の7割が旧周桑郡の丹原方面で、またそれが良質で、輸送費が安かった。③上灘の業者は生蠟搾りと晒蠟を兼ねており、

生蠟業者に中間利潤を抜かれなかった。④生産能率を高める努力がなされ、雇い人も下灘の方がよく働いた。ことなどが挙げられています。戦後も長浜の喜多製蠟の下請として存続していましたが、昭和45年廃業し、上灘の晒蠟業は途絶えてしまいました。

現在、晒蠟で栄えた屋敷が遺っていますが(最盛期には10軒ほどあった)、空き家になっています。ひと時代を築いた地域の文化遺産を大切に、子どもたちのふるさとを愛する心、地域の伝統文化を大切にす



(N.T) 座敷や中庭も立派な屋敷



☆いよじょのしゃべり場☆

1月29日(水)13時~15時
おしゃべりしませんか~♪



伊予市子ども総合センター

伊予市尾崎3-1

☎989-6226

(伊予市総合保健福祉センター2階)

《発達支援巡回相談》

~「わたしは、いそがしい」~

保育所の春の保護者会。「子どもにとって、朝ご飯はとても大事!朝ご飯は一日の活力になるもの」と講師の先生が話を終わろうとした時です。「そんなこと言われてもできないわよ。わたしは忙しい。」と、一人の母親がつぶやいたのです。会場にいた周りのお母さん方からその母親に冷たい視線が集まりました。その時「だからあなたの子どもはダメなのよ・・・」と母親の一人が言いました。

翌日からその母親に「朝ご飯を食べた?」「何を食べたの?」と声を掛ける母親たち。「学校に行ったらそんなこと言ってくれないわよ」と。恐るべし、朝ご飯攻撃か?一見ママ友いじめかと思えた保育所はその後どうなったのでしょうか。

「昨日の残り物をひとつだけでもいいのよ」「シリアルでも」そのうち30秒でできる朝ご飯レシピを教える母親まで出てきました。朝ご飯の声掛けは広がっていき、次第に「忙しいから朝は大変でしょ」「あの時声をかければよかった。ごめんなさい」と、孤立気味だった母親をかばう声もあがり始め、周りに人が集まっていくようになっていました。

ある日、「あれから朝ご飯を頑張って作っています。子どものいらいらが収まったんですよ」と園長先生に報告がありました。巡回相談員(K)

